

都市再生整備計画 評価委員会資料 (大垣市中山道赤坂宿周辺地区)

検討資料



平成22年11月24日(水)

大垣市 企画部 政策調整課

1. 都市再生整備計画 事後評価委員会とは

根拠

まちづくり交付金交付要綱 第8 都市再生整備計画の事後評価
まちづくり交付金事後評価実施要領 第5 評価委員会

目的

事後評価の手続き及び都市再生整備計画の目標の達成状況の確認等の結果について、その妥当性を審議し、不適切な点または改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。
今後のまちづくり等の内容の妥当性について審議し、不適切な点または改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。

都市再生整備計画事後評価委員会での審議事項

方法書について…

事後評価を実施する方法について記載した方法書の確認

成果の評価について…

まちづくりの目標を定量化した指標の数値目標の達成状況の確認

実施過程の評価について…

事業への住民参加やまちづくり体制の構築などの確認

効果発現要因の整理について…

成果の評価および 実施過程の評価結果に至った要因の整理

都市再生整備計画事後評価委員会での審議事項

今後のまちづくり方策について…

効果発現要因の整理結果を基に今後のまちづくりの方策を検討

フォローアップ計画について…

成果の評価について、今年度完了事業による事業効果の計測や目標未達成の数値目標について、翌年度以降のフォローアップ計画の確認

事後評価原案の公表について…

～ について実施した内容をとりまとめた原案をHP等で住民へ公表しているかの確認

その他

2. 都市再生整備計画事業とは

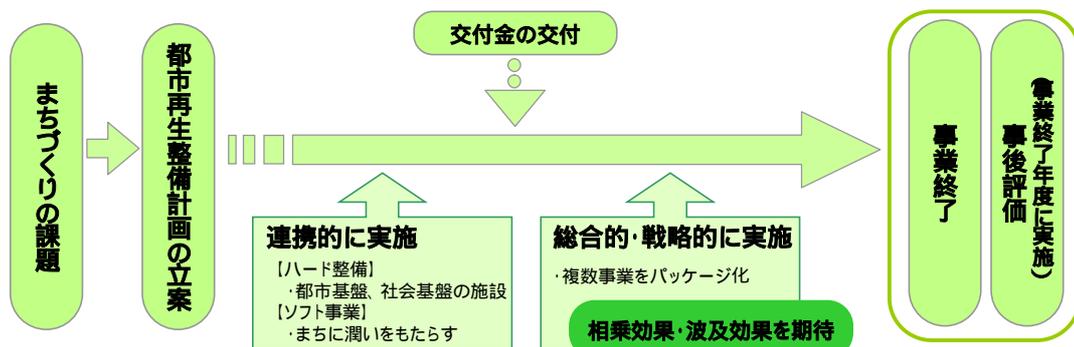
2.1 都市再生整備計画の概要

目的

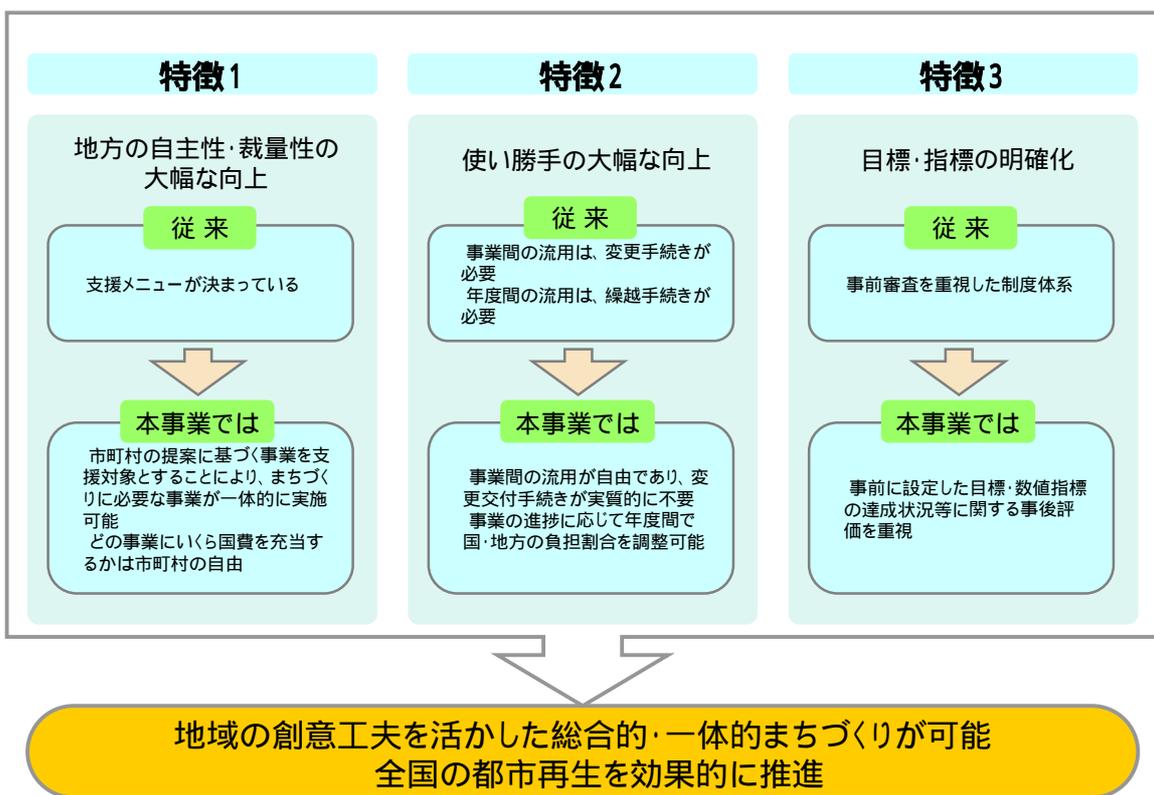
地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るための制度である。

制度の概要

事業(交付金交付)期間は1計画に対し、3～5年である。



都市再生整備計画事業の3つの特徴



交付対象事業

〈基幹事業〉

- 道路、街路、公園、河川、多目的広場、修景施設、地域・観光交流センター、公衆トイレ、案内板 など

〈提案事業〉

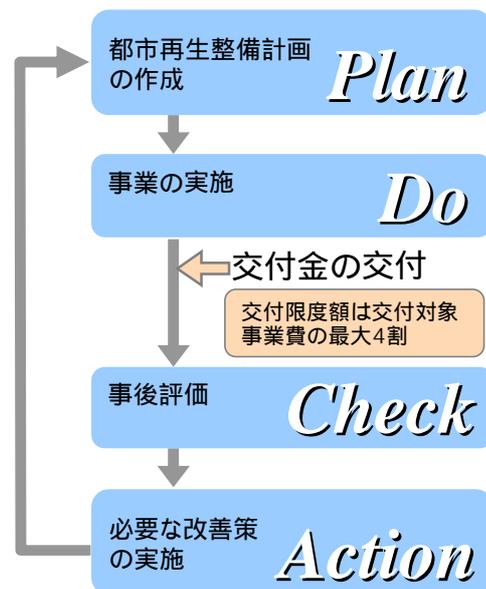
- 市町村の提案に基づく事業
- 各種調査、まちづくり活動、社会実験 など

〈関連事業〉

- 他の補助事業により補助を受けている事業 など

都市再生整備計画事業評価の概要

都市再生整備計画では、地域が抱える課題やまちづくりのビジョンに基づき、まちづくりの目標や数値指標を達成するために必要な事業を記載した都市再生整備計画を作成(Plan)し、成果を意識しながら事業を実施(Do)し、交付期間終了年度に目標の達成度を評価(Check)するとともに、必要な改善を速やかに改善する(Action)という一連のサイクルを導入している。



2.2 大垣市中山道赤坂宿周辺地区における 都市再生整備計画事業の活用

まちづくりの課題

- 宿場町としての歴史的資源、遺産の保存・整備が必要である。
- ・それらを観光資源として効果的に連携させ、市民や観光客が回遊して時間消費できるようなまちづくり等が必要である。
 - ・歴史的景観の整備と、それを活用した独自性のあるまちなみ形成が必要である。
 - ・歴史的資源を保存することとともに、地域の憩いの場となる歴史公園、古墳、広場等の整備が必要である。
- 治水対策と震災対策、防犯対策の強化等による、安全・安心なまちづくりが必要である。
- ・一時的に初期雨水を貯留する施設の設置や流域変更、水路新設等を一体的に整備する必要がある。
 - ・昼飯南部未利用地は14年間整備されない状況が続き、不良市街地が形成されつつあるため、交通や防犯等の観点から有効な道路ネットワークを形成する必要がある。

解決するために...



都市再生整備計画事業を活用したまちづくりの実施

3. 大垣市中山道赤坂宿周辺地区における 都市再生整備計画事業の概要

3.1 大垣市中山道赤坂宿周辺地区の概要

地区名	面積	計画期間
大垣市中山道赤坂宿周辺地区	590ha	平成18年度～平成22年度
目標		
大目標: 歴史ある宿場町の再生による賑わいの創出と、安心して住み続けられるまちづくり		
目標1 : 特色ある地域歴史景観の創出による観光客の誘導促進		
目標2 : 歴史的資源を活用した交流と憩いの場づくり		
目標3 : いつまでも安全・安心に住み続けられるための環境整備		

事業内容

〈基幹事業〉

道路

- ・市道昼飯10号線ほか4路線
- ・市道昼飯31号線

地域生活基盤施設

- ・矢道ハリヨの池広場
- ・東海自然歩道情報板整備
- ・憩いの森遊歩道情報板整備
- ・雨水貯留施設
- ・排水施設
- ・青墓幼保園増築工事

高次都市施設

- ・(仮称)青墓地区センター整備

公園

- ・(仮称)さくら公園
- ・(仮称)長松ため池公園
- ・車塚公園

高質空間形成施設

- ・中山道景観整備
- ・歴史の小路整備
- ・岩巢公園
- ・桜並木遊歩道整備
- ・金生山緑道整備
- ・赤坂駅公衆便所設置工事

事業内容

〈提案事業〉

事業活用調査

- ・事業効果の分析調査

まちづくり活動推進事業

- ・赤坂まちづくり楽校

〈関連事業〉 (参考)

- (仮称)自然の里公園整備
- 青墓小学校耐震補強工事
- 赤坂中学校耐震補強工事
- 史跡昼飯大塚古墳整備

総事業費

〈基幹事業〉
840百万円

+

〈提案事業〉
7百万円

=

合計
847百万円

目標を定量化する指数

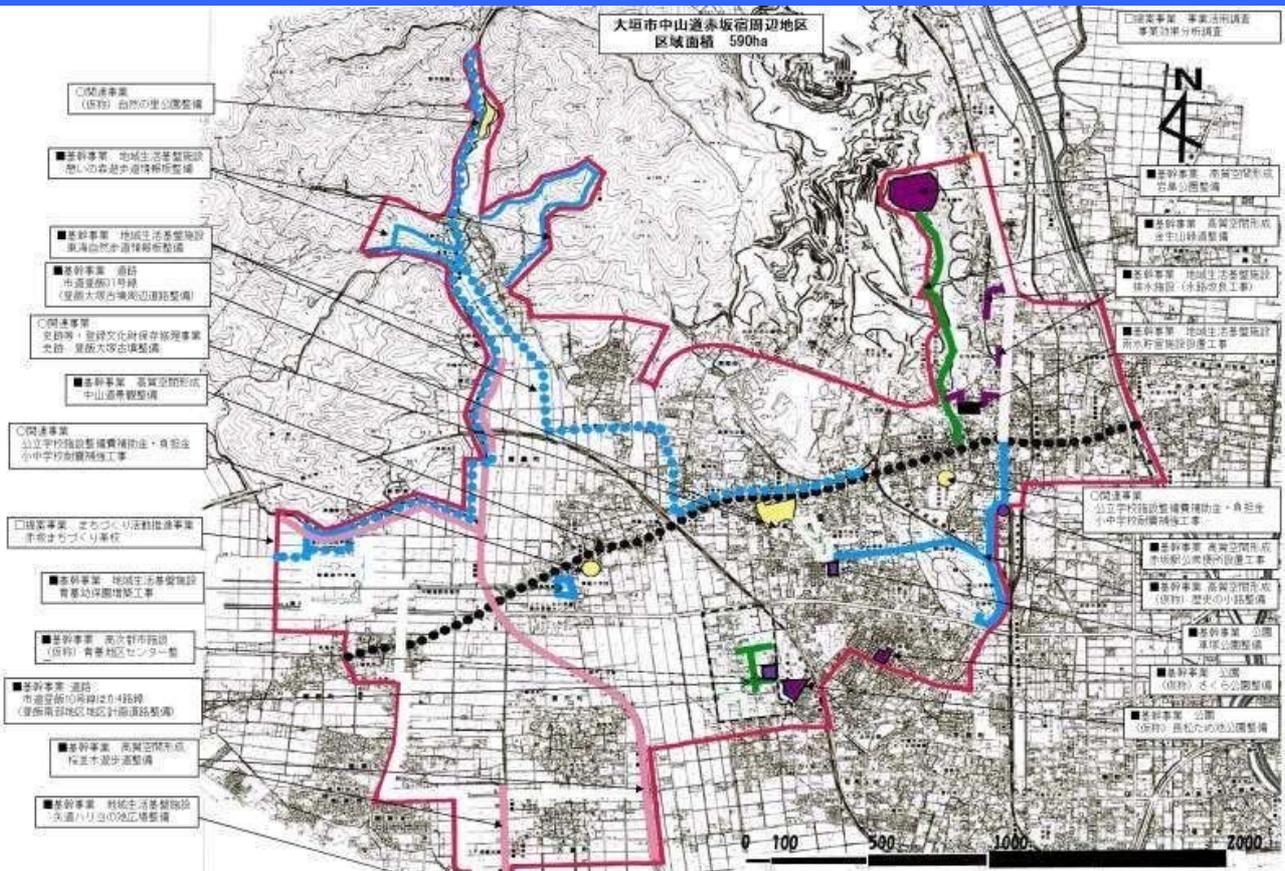
指標1: 大垣観光ボランティアガイド案内人数

指標2: 観光客平均滞在時間

指標3: 赤坂地区内公園緑地面積

指標4: 防災訓練参加人数

事業位置図



3.2 各事業の概要

《基幹事業》 道路

事業箇所名

市道昼飯10号線ほか4路線

事業スケジュール

平成20年度～平成22年度

事業内容

側溝工 L=890m、舗装工 A=1,400m²



整備前



整備後

《基幹事業》 公園

事業箇所名

車塚公園

事業スケジュール

平成21年度

事業内容

舗装、遊具、樹木



整備前



整備後

《基幹事業》 地域生活基盤施設

事業箇所名

青墓幼保園増築工事

事業スケジュール

平成18年度～平成19年度

事業内容

渡り廊下、ピロティ、プール置場、砂場、キウイ棚、器具庫



整備前



整備後

《基幹事業》 地域生活基盤施設

事業箇所名

雨水貯留施設

事業スケジュール

平成18年度～平成19年度

事業内容



整備状況



《基幹事業》 高質空間形成施設

事業箇所名

中山道景観整備

事業スケジュール

平成19年度～平成20年度

事業内容

情報板(赤坂宿の観光施設等を記載)設置 2基



整備前



整備後

《提案事業》 まちづくり活動推進事業

事業箇所名

赤坂まちづくり楽校

事業スケジュール

平成20年度～平成22年度

事業内容



開催状況

4. 事後評価手続き等にかかる審議

4.1 方法書の作成

各評価項目について、いつ、どのように行うのかを記載した計画書(方法書)を作成し、都市再生整備計画事業の評価を実施し、事業の有効性を検証

(記載内容)

- (1) 成果の評価
- (2) 実施過程の評価方法
- (3) 効果発現要因の整理方法
- (4) 今後のまちづくり方策の作成方法
- (5) 事後評価原案の公表方法
- (6) 評価委員会の審議
- (7) 有識者からの意見聴取方法
- (8) 事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況

4.2 成果の評価(指標の達成状況)

目標を定量化する指標

指標1: 大垣観光ボランティアガイド案内人数

指標2: 観光客平均滞在時間

指標3: 赤坂地区内公園緑地面積

指標4: 防災訓練参加人数

H17年計画作成時

H22年事後評価時

H23年以降フォローアップ



指標1：大垣観光ボランティアガイド案内人数

大垣観光ボランティアガイドが赤坂地区内を案内した人数により評価する

平成16年度 367人/年 (従前値)	➔	平成22年度	目標達成度
		目標値 550人/年	○
		評価値(見込み値) 787人/年	

評価値：平成22年4月～8月のデータを基に推計
平成17年度～19年度まで欠測のため、平成20年度、平成21年度の9月～3月の各月の
最小値を合計して求めた
フォローアップ：平成23年度案内人数

〔効果発現要因〕

近年、歴史的な地域に対する関心が高まっている状況にある。
このような中、歴史的資源やアクセス道路の整備による観光客の増加により、
観光ボランティアガイドの案内人数も増加したと推測できる。

指標2：観光客平均滞在時間

赤坂地区を訪れた人の平均滞在時間により評価する

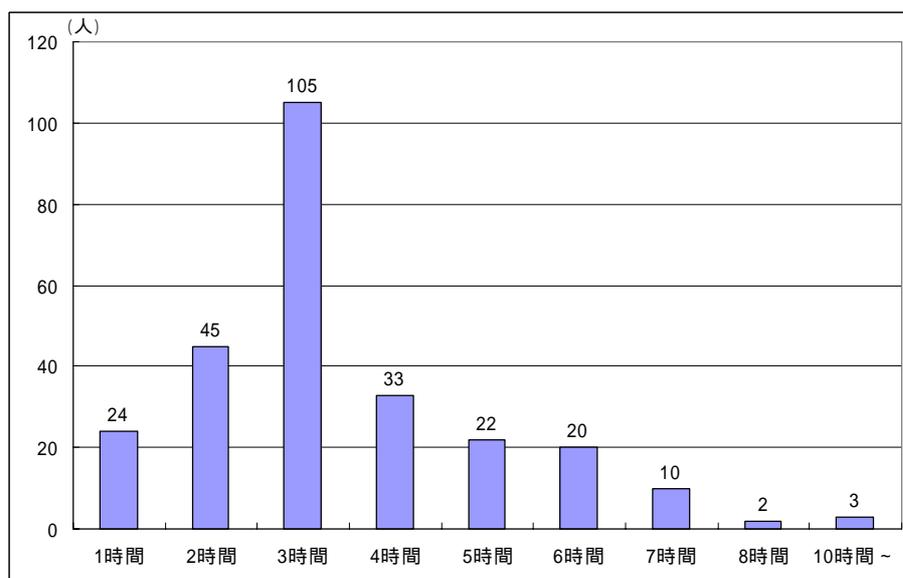
平成16年度 2.0時間 (従前値)	➔	平成22年度	目標達成度
		目標値 3.5時間	○
		評価値(見込み値) 3.5時間	

評価値：平成22年度アンケート調査
フォローアップ：平成23年度アンケート調査

〔効果発現要因〕

公園、緑道、遊歩道のハード整備と情報板等の整備や観光ボランティアの案内によるソフト整備によって普段見過ごされていた場所を再発見できるなどの効果から、観光時間が延びたと推測できる。

指標2：観光客平均滞在時間

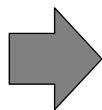


- ・アンケートの結果、滞在時間が最も多かったのは3時間であった。
- ・滞在時間10時間以上は、宿泊客である。

指標3：赤坂地区内公園緑地面積

赤坂地区内の1人当たりの公園緑地面積により評価する

平成16年度
3.8m ² /人 (従前値)



平成22年度	目標達成度
目標値 4.7m ² /人	○
評価値(見込み値) 5.0m ² /人	

評価値：平成22年度公園面積/人口推計

フォローアップ：平成22年度公園面積/平成23年3.31人口

〔効果発現要因〕

地区内における公園整備を計画通り実施できたことにより、人口あたりの公園面積は増加したため、地域交流と憩いの場が創出された。また、市道整備とともに地域防災施設の整備により、災害時への備えが強化され、いつまでも安全・安心に住み続けられるための環境整備が整ってきている。

指標3 : 赤坂地区内公園緑地面積

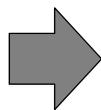


年度	公園緑地面積 (ha)	地区内人口 (人)	一人あたりの公園面積 (㎡/人)
H16	3.87	10,195	3.8
H17	3.67	10,269	3.6
H18	3.77	10,217	3.7
H19	3.77	10,272	3.7
H20	4.02	10,190	3.9
H21	4.87	10,006	4.9
H22	4.94	9,962	5.0

指標4 : 防災訓練参加人数

防災訓練に参加した人数により評価する

平成16年度
200人/年 (従前値)



平成22年度	目標達成度
目標値 260人/年	○
評価値(見込み値) 260人/年	

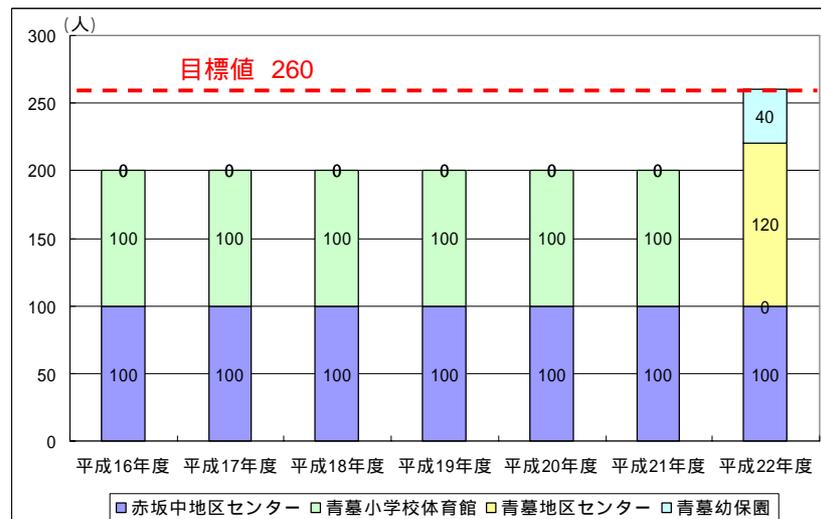
評価値: 整備後の参加人数を見越した数

フォローアップ: 平成23年度訓練参加人数

〔効果発現要因〕

地域防災施設や公園等の防災拠点の整備と道路整備された路線を避難路として活用することにより、地域の防災に対する意識の向上を図ることができ、防災訓練の参加人数増加へとつながった。

指標4：防災訓練参加人数



4.3 実施過程の評価

実施した内容

モニタリングの実施状況確認

- ・目標を定量化する指標の数値データ整理
- ・有識者からの意見聴取

住民参加プロセスの実施状況確認

- ・「赤坂まちづくり楽校」を開催し、WS等により地域の課題を学習する機会の提供

持続的なまちづくり体制の構築状況確認

- ・「赤坂まちづくり楽校」を開催し、積極的な市民参加を促し、WS等により地域の課題を学習する機会を設けている

4.4 庁内会議での検討事項

第1回庁内会議: 効果発現要因の整理に関する検討

第1回庁内会議
(H22.10.1)



第2回庁内会議: 今後のまちづくり方策の方策に関する検討

第2回庁内会議
(H22.10.12)



第1回庁内会議: 効果発現要因の整理に関する検討

成果の評価について

- ・定性的な効果がある。

道路整備により、狭隘率が減少し、住宅等の立地に貢献している。また、道路ネットワークの形成により防犯性の向上にも繋がっている。

幼保園になったことで、地域の子どもたちが同じ場所で幼稚園児・保育園児に関係ない交流による子どもの集団の円滑な形成や園児の行動範囲の広がりが見られるようになるなど効果が見られている。

地区内の古墳等の歴史的・文化的遺産整備により、地域の文化度が向上している。また、ハリヨ池広場の整備により、貴重な地域資源への関心も高まっている。

赤坂まちづくり楽校の活動を通じ、市民のまちづくりへの意識の向上や地域への愛着心や地域コミュニティーが向上している。

青墓地区センターは、防災拠点の機能のみならず、地域活動・社会教育・福祉活動の場としての活用が期待されている。

実施課程の検証について

- ・モニタリングの実施状況

目標を定量化する指標の数値データ整理

まちづくり交付金モニタリングシートを作成し、有識者から意見聴取

- ・住民参加プロセスの実施状況

赤坂まちづくり楽校の開催

- ・持続的なまちづくり体制の構築状況

赤坂まちづくり楽校の開催

第1回庁内会議：効果発現要因の整理に関する検討

効果発現要因の整理について

数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

- ・大垣観光ボランティアガイド案内人数については、歴史資源の整備により観光客が増加し、観光ボランティアの案内人数も増加していることから、当初期待した以上の効果が発現している。
- ・観光客平均滞在時間については、観光ボランティアの案内や観光スポットや案内板の整備により観光客の滞在時間が増え、当初期待した効果が発現している。
- ・赤坂地区内公園緑地面積については、事業により公園面積が増加し、当初期待した効果が発現している。
- ・防災訓練参加人数については、防災訓練の拠点が新たに整備され、当初期待した効果が発現している。

第2回庁内会議：今後のまちづくり方策の方策に関する検討

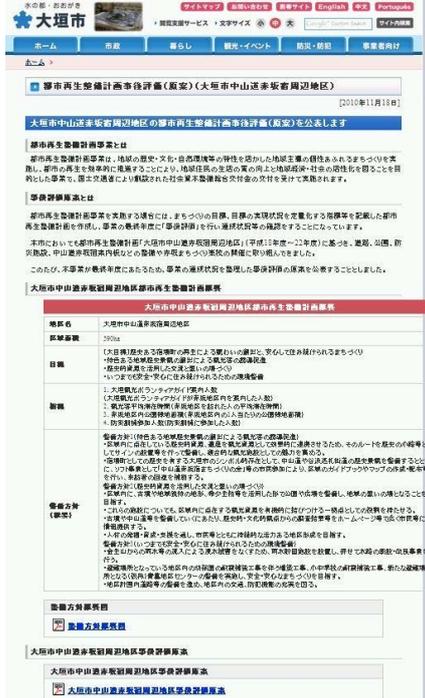
今後のまちづくり方策の検討について

- ・観光スポットの整備と併せ、情報板が整備されたことや観光ボランティアの案内人数が増加したことにより、観光客の滞在時間が増加した。
観光ボランティアの質の向上を図り、さらなる観光客の集客を図る。
- ・雨水貯留施設や排水施設が整備されたことや新たな震災時の防災拠点が整備されたことにより、安全・安心に住み続けられるための環境整備が整った。
防災拠点整備をPRし、住民の防災意識の向上を図る。
まちづくり活動を活かし、さらなる市民協働意識の醸成を図る。
- ・さらなる回遊性の向上にむけて、案内サインの充実が必要である。
まちなみの修景や案内サインの充実や回遊性を高めることにより、観光客の快適性を向上させて、滞在時間の増加を図る。
- ・防災拠点整備の周知・活用し、市民の防災意識向上を目指す。
防災拠点整備をPRし、住民の防災意識の向上を図る。

4.5 事後評価原案の公表

インターネット

大垣市ホームページ上で事後評価シート(様式2-1、2-2)を掲載



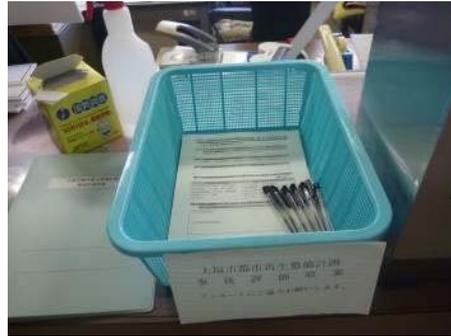
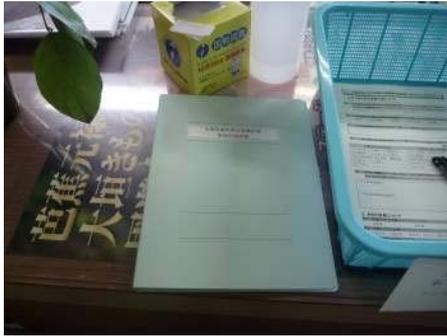
広報掲載

市広報紙(広報おおがき)で市のホームページに事後評価シートを掲載していること、および政策調整課の窓口で閲覧を行っていることを周知



閲覧

政策調整課の窓口において事後評価原案を閲覧



その他

イベント(まるごとバザールインおおがき)において、事後評価シート(様式2-1、2-2)および主な事業をパネルで展示して市民への公表を実施



4.6 フォローアップ計画

指標1：大垣観光ボランティアガイド案内人数

平成23年度の観光ボランティアガイドが赤坂地区内を案内した人数を集計し、確定値とする。

指標2：観光客平均滞在時間

平成23年度にアンケート調査を実施し、観光客の平均滞在時間を求め、確定値とする。

指標3：赤坂地区内公園緑地面積

平成23年3月31日における住民基本台帳人口と平成23年4月1日に公園緑地面積により、赤坂地区内の1人当たりの公園面積を求め、確定値とする。

指標4：防災訓練参加人数

平成23年度に実施する防災訓練参加人数を計測し、確定値とする。

事業評価のスケジュール

